

○副議長（保坂 悟君）

近藤議員。

○9 番（近藤新二君）

自転車事故が、糸魚川市ではかなり前に起こった限りで、私の記憶する限りでは、もう数十年たっているなということがありますので、さらなる自転車事故を予防するために、皆さんで取り組みましょう。

これで、私の一般質問を終わります。

○副議長（保坂 悟君）

以上で、近藤議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を2時10分といたします。

〈午後2時01分 休憩〉

〈午後2時10分 開議〉

○副議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、池田七菜議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。〔1 番 池田七菜君登壇〕

○1 番（池田七菜君）

糸魚川の未来を魅せる会、池田七菜です。

発言通告書に基づき、1 回目の質問をさせていただきます。

1、学校の在り方及び学びの多様化について。

(1) 学校の在り方について。

市では、市立学校教育環境整備計画の素案を6月に公表し、パブリックコメントを経て9月に策定する予定としています。そこで、学校の在り方について伺います。

① 「市立学校教育環境整備に関するアンケート」には、どのような意見や要望が寄せられましたか。

② アンケート結果について、年代別や立場別（児童生徒、保護者、地域住民等）の特徴をどのように分析していますか。

③ 学校規模や通学距離、教育環境に関する市民の意見を、計画素案にどのように反映していますか。

④ 今後の計画策定に当たり、市民の声をどのように反映していく考えですか。

(2) 学びの多様化について。

① 「多様な学びに関するアンケート」には、どのような意見や要望が寄せられましたか。

- ② アンケート結果について、どのように分析していますか。
- ③ 学びの多様化体制整備方針において、特に重視している点は何ですか。
- ④ 学校以外の学びの場や居場所づくりについて、どのような方向性を考えていますか。
- ⑤ ひすいルーム移転のスケジュールと、移転後の運営体制について伺います。
- ⑥ ひすいルームの機能強化について、どのような検討を進めていますか。

2、観光振興について。

- (1) 市では「稼げる観光」をどのように定義し、どのような成果を目指していますか。
- (2) 観光課をヒスイ王国館へ配置し、観光協会との一体化を図っていますが、現時点でどのような成果があったと認識していますか。
- (3) 観光課と観光協会の連携強化により、今後どのような事業展開を目指していますか。
- (4) 押上のヒスイ海岸には、ゴールデンウィークをはじめ、多くの観光客が訪れていますが、現在の受入体制をどのように評価していますか。
- (5) ヒスイ海岸において、通年でのトイレの設置、案内受付やインフォメーション機能の設置について検討する考えはありますか。
- (6) ヒスイ海岸において、ごみの持ち帰り啓発やごみ箱の設置を含めた環境整備について、どのように考えていますか。

3、有害鳥獣及び有害昆虫対策について。

- (1) 全国的に熊の目撃情報や人身被害が報告されていますが、糸魚川市における今年度の出没状況はどうなっていますか。
- (2) 市職員の狩猟免許取得の状況と、今後の取得促進に向けた取組について伺います。
- (3) 猟友会との連携体制はどのようになっていますか。
- (4) ガバメントハンターとして実際の捕獲活動に従事できる人材育成について、どのように取り組んでいますか。
- (5) スズメバチ等の有害昆虫による被害防止について、市の現状認識を伺います。
- (6) スズメバチ等の巣の駆除費用に対する補助制度を創設する考えはありますか。

以上、1 回目の質問となります。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2 番目の1 点目の稼げる観光と成果につきましては、観光客の消費拡大を促す仕組みを構築し、それぞれの観光事業者が目標とする利益を得られる環境づくりであると考えております。

2 点目の一体化による成果につきましては、以前と比べ、双方の連携及び情報共有が円滑になり、スピーディーな対応ができるようになってきております。

3 点目の今後の展開につきましては、現在、策定しています仮称・観光マスタープランの中で、

行政と観光事業者が担う役割を整理し、より効果的に事業を展開できる体制づくりを目指してまいります。

4点目のヒスイ海岸の受入体制につきましては、石探しを目的とする来訪者が増えてきており、駐車場不足による路上駐車が増加等が課題であると捉えております。

5点目のトイレにつきましては、冬期間は利用者が少ないことから、これまでどおり仮設トイレでの対応が適切と考えております。

また、インフォメーション機能につきましては、ホームページやパンフレット等で引き続き対応してまいります。

6点目のごみ対策につきましては、ごみの持ち帰りを含めたマナー遵守の看板を設置しております。ごみ箱につきましては、持ち帰りが基本と考えておりますので、設置する予定はございません。

3番目の1点目の今年度の出没状況につきましては、6月21日現在で、33件の目撃情報が寄せられております。

2点目の市職員の狩猟免許取得の状況につきましては、4月1日現在で8人であり、引き続き、職員に取得を呼びかけてまいります。

3点目の猟友会との連携体制につきましては、鳥獣の出没状況など情報共有を図り、鳥獣対策に関する助言や現場対応に協力いただいております。

4点目の人材育成につきましては、市職員の狩猟免許取得や各種研修会への参加を通じて、専門知識や技術の習得に努めております。

5点目の有害昆虫による被害防止につきましては、毎年、蜂の巣に関する相談が寄せられており、市民生活に影響を及ぼす事案として認識しております。特に夏から秋にかけてはスズメバチの活動が活発となり、人を攻撃する危険性が高まることから、市民への情報提供に努めるとともに、被害防止に向けた啓発を継続してまいります。

6点目の蜂の巣駆除への補助制度につきましては、現時点では考えておりません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

 蘆本教育長。 〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 池田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目の市立学校教育環境整備方針に関するアンケート調査への意見につきましては、整備方針のとおり学校再編の実施を望む意見が多く、通学支援や校舎の老朽化対策への要望がありました。

 一方で、少数ですが現状維持や少人数教育を望む意見も寄せられております。

2つ目のアンケート結果につきましては、保護者世代からの回答が9割を超えており、子供にとって充実した教育環境を望んでいるものと捉えております。

3つ目の計画案への市民の意見の反映につきましては、学校運営協議会委員を中心に、保護者、地域、教育関係者から選出した市立学校教育環境整備計画検討委員会において、意見聴取をしてお

ります。

4つ目の計画への市民の声の反映につきましては、パブリックコメントを7月21日から8月20日まで実施する予定としており、そこで寄せられた意見について、合理的と判断したものについては、計画に反映してまいります。

2点目の1つ目の多様な学びに関するアンケート調査につきましては、アンケートでは、児童生徒と保護者に回答していただきましたが、中でも学校に行きづらくなったときに望む活動場所についての回答では、オンラインによる授業参加、学校内に個別に設置する教室の学習、塾での学習、フリースクールでの学習や活動が上位でありました。

2つ目のアンケート結果につきましては、休みがちではあるけれども、ある程度登校している場合には、オンラインによる授業を望んでおり、ほとんど学校に行けていない児童生徒は、校内での別室学習やひすいルームでの学習や活動を望んでいるものと捉えております。

3つ目の学びの多様化体制整備で特に重視している点につきましては、児童生徒が安心して過ごせる居場所づくりと、不登校であっても学ぶことができる環境をつくる必要があると考えております。

4つ目の学校以外の学びの場や居場所づくりにつきましては、ひすいルームの機能強化により対応するよう計画しております。

5つ目のひすいルーム移転のスケジュールにつきましては、必要な改修を行い、できるだけ早期に移転したいと考えております。

運営体制につきましては、引き続き、市直営体制を予定しております。

6つ目のひすいルームの機能強化につきましては、まずは、児童生徒が安心して過ごすことのできる居場所であり、子供たちの自立に向けてエネルギーを蓄えることのできる場所であることに加え、不登校であっても誰一人取り残さない学びを保障する場所となることのできる体制を整えてまいります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

では、学校の在り方及び学びの多様化についてから、お伺いしたいと思います。

まず、学校の在り方についてですが、市立学校教育環境整備に関するアンケートは、いつ、どのように、どなたを対象に、どのような形で取られて、何件ほど意見が集まったか教えていただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えします。

アンケートにつきましては、調査期間が令和8年の2月18日から令和8年の3月8日までで、

市民の皆さんを対象に調査を行いました、特に中学生以下の保護者の皆さんにお答えいただくようお願いしてあるところです。

調査方法、回答は無記名式、オンライン回答としておりまして、広報いといがわ3月号等で周知をしておりました。

回答については、330件の回答をいただいております。その中で96%が高校生以下の家族がいる保護者世代でありました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

先ほど教育長の答弁の中で、通学支援を求めるという声があったとお伺いしましたが、通学支援についてはどのような支援を行っていく予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

通学支援につきましては、校区が広がることも考えられますので、スクールバスによる送迎、ほかにも通学のバスの補助等を考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

通学の時間が長くなったり負担がかかることが多いと思うので、その辺りのサポートしっかりと確実にしていっていただければと思います。

また、寄せられた意見の中で、少ないけれども現状維持、小規模校での学びをしていきたいという意見があったとおっしゃっていましたが、小規模校を小規模特認校として残し、守っていく考えは今あるのでしょうか。一度閉校になると、再開が困難だと考えられます。以前も私、提案させていただいたんですが、小規模特認校と学びの多様学校と併せた学校づくりというのは実現可能でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

現在のところ、小規模特認校をとという考えはございません。学びの多様化の体制整備についまし

ても、これからいろいろ考えていかなきゃいけない中で検討することはあるかもしれませんが、現在のところ、そういった考えはありません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

小規模特認校、とっても魅力的なものになると思うので、これからも希望を持って要望し続けていきたいと思っております。

（４）のところですが、パブリックコメントを募集して、素案に生かして策定するということでしたが、策定した後に市民の方の意見をもらうというような機会はないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

これまでも、アンケート調査でありますとか学校運営協議会で皆さんのご意見をいただいております、今回、計画案をお示しした中で、またパブリックコメントをいただきます。現在そのパブリックコメントでいただいた中で、合理的なご意見があれば、また取り入れようというふうには思っておりますが、正式に策定した後、またということは、今のところ考えておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

じゃ、素案の段階で説明会を開いたりですとか、そういうことは予定されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

素案を示した段階で、説明会等を開く予定は現在ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

例えばホームページとかで見れる、見たところでパブリックコメントを集めるという形になると思うんですけど、ぜひいろんな方に説明会の予定がないということですので、いろんな方に見ても

らえるような、そして、たくさん意見をいただけるような工夫をしていただければよいと思っております。

学校の在り方についてなんですけれども、学校規模や配置だけでなく子供たち一人一人への支援体制という視点も大切だと考えております。特に今の時点ですと、ちょうど子供たちの数が少なくなっていて、人数が少ないことでプラスの支援が減ってしまったという声を実は聞いていまして、これまで受けられていた支援が難しくなってしまったというお話を聞きました。特に特別支援など、支援を必要とする子供たちにとっては、一つ一つの支援が学校生活や学習意欲に大きく影響します。今現在の支援の様子も丁寧に現場から拾って行っていただきたいと思います。

今後の計画策定に当たっては、学校の配置や規模だけでなく、支援の質を維持し、さらに充実させていくという視点を大事にさせていただいて、子供たちにとって何が最善なのかを第一に考えながら、丁寧な議論が進められることを期待しております。

では次に、学びの多様化について伺います。

2月の総務文教常任委員会で、多様な学びに関するアンケートの結果が資料として提出されました。私、見させてもらったんですけど、それを見て、児童生徒と保護者の間で認識に大きな違いがあるのではないかなと感じました。

先ほどの、いただいた答弁でどんな要望、どんな学びの場が必要かというところをお答えいただいたんですけども、学校内、個別の学習、オンラインによる授業参加というのは、児童生徒、保護者の方も、ともに20%前後で同じような割合かなと思っているんですけども、一番多かったのが、子供たちが一番多かったのが、特になしが37%ぐらいだったんですね。

一方で、保護者は特になしと答えになったのが3%ぐらい。子供たちと保護者、全然割合が違くなっていうふうに思いました。多くの保護者は、何らかの居場所や学びの場を求めているということはあるかと思いますが、子供たちはどうなんだろうと思いました。

ひすいルームについては、児童生徒3.8%、保護者は13.7%。学びの多様化を求めている方は児童生徒が5%、保護者は15%。フリースクールを求めているのは児童生徒5%ぐらい、保護者は19%。ひすいルーム、学びの多様化学校、フリースクールの割合は、いずれも保護者の割合が大きく上回っています。ですが、通学状況別に見ますと、ほとんど学校に行っていない児童生徒では、ひすいルームや学びの多様化学校を希望する割合が高くなっていました。実際に困り感を抱えている子供たちは多様な学びの場を求めていることが読み取れます。

私は、この数字から、保護者は子供のために様々な選択肢を求める一方で、子供自身はどうしたらいいか分からない。今は何も選べないという状況にあるのではないかと感じました。

市としてこのような児童生徒と保護者の認識の違いや通学状況によるニーズの違いをどのように分析しているのか、改めてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

あのアンケートで、やっぱり子供たちと保護者との間で、今、議員おっしゃるような違いが見ら

れたかなというふうに思います。子供たち、5年生から中学生までの子供たちのアンケートですが、実際によく分からないところは担任が説明をしながらのアンケートですので、どう答えていいか分からなかったというところもあるのかなというふうに思います。保護者のほうには説明をつけながらのアンケートで、保護者のほうが、少し理解度が高かったかなというふうに分析はしています。

ただ、やはり保護者の場合は、我が子が心配な状況になったときにどうしたらいいのか、具体的な場所、環境を用意してあげられないだろうかというふうにお考えになってるってこともよく分かりましたし、子供たちにとっては、まずは学校でしっかりと居場所をつくるということだと思いますが、そうでないときの選択肢として、多様化に対応できる環境をつくっていくことが重要だし、それが見える形になれば、子供たちの選択肢の中に入ってくるのかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

学校に通いづらさを抱えている子供たちは、ここなら過ごせる、ここなら行ってみたいと思える場所を求めている子も多いと思います。学びの場は、単に勉強する場所ではなく、一度立ち止まり、安心して過ごし、先ほど教育長もおっしゃってましたが、エネルギーを蓄えながら自分の未来を少しずつ考えていける場所であることが大切だと思っています。そのような視点を今後の学びの多様化体制、整備方針に生かしていただきたいと思います。

今は、学校に通いづらいと感じていない子供たちにも、こんな学びの場があることを伝えるということは必要だと思うんですけども、アンケートのときに説明するだけじゃなくて、そのような、こんな学びの場があるよという説明する機会はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

通常の教育活動の中で、特に取り上げて説明をする機会というのはそれほどないのではないかと認識しておりますが、学校に通いづらくなったとか、そういった個別の事案が起きたときには、保護者、それから本人も含めていろいろな選択肢があるんだということを伝えられるように、学校は取り組んでいると思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

様々な場所で学べるということは、子供たち同士の相互理解、こんなところで学んでる友達もいるんだとか理解を深めるための大切なことだと思いますので、児童生徒もちろん、保護者の方

もそうだとおっしゃってたんですけれども、丁寧な説明する機会が設けられたらいいのかなと思いました。

次に、ひすいルームについて伺います。

移転先というのは決まっていらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

現在のところ、糸魚川総合病院の隣の旧なでしこで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

旧なでしこを選定した理由、よければお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

様々な施設を見て、検討してまいりましたが、今、なでしこにしようと思ってる決め手の一つが、糸魚川総合病院に、バスが市内各地から集まりますので、こどもフリーパスを使って、送迎が難しいご家庭でもバスで通うことが可能であるということ。それから、出入口がそれほど人通りが多くなくて、子供たちが入りやすいかなというところが、今考えているところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

通学しやすいという視点、とても大事だと思います。環境がよい、行きやすい環境がよいところで子供たち過ごしてほしいなと期待しております。

旧なでしこなんですけど、なでしこをやっていた時代、私の祖母が入所していたりとか、あと今年の3月に糸魚川総合病院のイベントで美尻プロジェクトというのに参加させてもらって、健康増進課の方もスタッフでいらしかったかと思うんですけど、なでしこへ入る機会が今までありました。部屋もあるし、ホールが、天井が高くて明るくて、私あそこでトレーニングを行ったんですけれども、すごくなでしこいいなと、私思いました。子供たちの状況に応じた活動や支援がすごく期待できるなと思っております。

ひすいルームをなでしこに移転することによって、利用しやすさはどのように向上しますか。部屋の数とかが増えるとお聞きしたんですけど、その辺りどのような、利用しやすさが向上するでし

ようか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃったように、部屋の数も現在使用してるところよりも多くなりますし、そうであれば子供の様子に応じて学習をする部屋であったり、少しエネルギーをためる部屋であったり、相談室であったりというふうに、子供たちの様子に応じて部屋を使い分けるということができると思っています。

また、保護者等との相談に使える部屋も確保できるということから、教育相談センターとしての機能も強化できるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

移転後の定員や支援体制は、現在と比較して変わるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

渡邊学校教育課長。〔学校教育課長 渡邊興勝君登壇〕

○学校教育課長（渡邊興勝君）

お答えいたします。

定員は考えておりません。

支援体制については、今のところ、すぐ変えるというものはないんですが、大きさ、部屋の数とか、そういったことも変わりますので、どのような支援が必要かということは考えていかなければいけない課題だと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

子供一人一人に丁寧に寄り添うための人的な支援体制も必要であれば、スタッフの増員なども考えていただければと思っています。

子供たちは、一人一人状況も悩みも違います。だからこそ、学校へ戻ることを目標にするのではなく、ここなら自分らしく過ごせると思える居場所を保障することが大切だと考えております。ひすいルームの移転が単なる場所の変更にとどまらず、子供たちが安心して過ごし、エネルギーを蓄えながら自分の未来を少しずつ考えていける場所へと発展することを期待して、学びの多様化、ひすいルームの項目を終わりにしたいと思います。

では、続きまして観光振興についてお伺いいたします。

（１）稼げる観光の成果などですが、現在の達成状況というのがあれば教えていただきたいのと、今推進している事業はありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

まず、稼げる観光というご質問なんですけれども、私のほうでは、３つポイントがあるというふうに思っております。

１つ目は、当市の強みを生かして観光客を増やし、その満足度を高めるということであります。

次に、観光客の消費額を上げること。

３点目としまして、その利益を循環させて、雇用ですとか地域経済の活性化に図ることというふうに捉えております。

これから、観光協会と連携して、様々な事業に取り組んでまいりますけれども、この３点を意識する中で、事業を計画し、実施し、地域振興に寄与してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○１番（池田七菜君）

では、（２）について、先ほどの市長の答弁で、双方の連携や情報共有がスピーディーになったということなんですけど、その先に情報連携、情報とか連携できるその先に、どんな目標があるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

これまでは、観光協会と観光課の事務局が物理的に離れておりましたので、意思疎通が図れずに観光施策の方針や目的がずれていたり、効率的に進められなかったりする場面も多々見られたわけですね。今現在、約３か月が経過をしておりますけれども、以前に比べてお互いの仕事の内容ですとか、その人の性格とかも含めて、理解が深まってきておりますので、イベントの実施におきましても、最後まですり合せができるような体制になってきているというふうに思っております。

目指す将来像のようなものを今マスタープランの中で定めているんですけれども、そちらについては、今現在検討中ということで、この場で申し上げることはできませんので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

まだ3か月しかたっていないところで、正直、まだあんまり成果は分からないのかなと思っていたところだったんですが、すぐに効果が現れているということで、これからのマスタープラン、楽しみにしていきたいと思っております。

では次に、押上のヒスイ海岸について再質問させていただきます。

押上のヒスイ海岸、全国から多くの方が訪れる糸魚川の大切な観光資源の一つだと考えられていると思います。この土日もしんなに天気よくなかったんですけれども、朝から複数台、車止まっていて、ちょうど私が通りかかったときに、3人組がカラフルなバケツを持って、石を拾うんだなという姿が見られました。

多く訪れる一方で、トイレや案内機能、休憩スペースなどの面では、まだ十分ではないという声も耳にしますが、現在の受入環境が、観光地として十分であると認識しているのでしょうか、いま一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

押上海岸の受入体制ということでございますが、今の議員もご指摘のように、連休ですとかお盆、海水浴シーズンになりますと車があふれ出て、路上駐車が見られるというような状況になっております。

駐車場につきましては、国道を挟んだ南側のほうに臨時駐車場を設置をしております、そちらへのスムーズな誘導を図ることによって、ある程度、解決できるのかなというふうには思っておりますけれども、インフォメーション機能等につきましては、なかなか海岸というところで看板を立てようにもスペースがない。国土交通省の土地ということもありますので、いろいろな手続ですとかそういういったものも必要になる。あるいは塩害で非常に傷みが激しいということもございますので、石探しの方が、非常に重宝されるパンフレットですとか、あるいはスマートフォンで見れる観光情報の中で、いろいろインフォメーション情報の強化を図りたいというふう考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

理想は、案内所の設置、後からも申し上げますが、トイレとかごみ箱の設置なんですけれども、チラシやパンフレットだけでも置くのは難しいですかね。屋外ということで、私が行ったとき、すごい風が強かったので飛んでくだろうなとも思ったんですけれども、何か解決策はないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

私も現地を確認してまいりまして、パンフレットを置けるとこがないのかなということで探してきましたんですけども、地下通路の出口のほうですね、あちらのほうもかなり風・雨が入りますので、何か蓋をすとか仕掛けは必要ですが、あそこは1つパンフレットを置けるような環境になってますので、調整をしたいなというふうに考えております。

あと、臨時駐車場のほうに、今少しキッチンカーの出店ですとかというのを今観光協会のほうで考えているんですけども、土日とか、そういう繁忙期限定になるかもしれないですけど、そういう場合には、そこにパンフレットを置いてもらうとか、そういう方法も考えられますので、また今後、関係者と共に検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

私も、まさに地下道のところにパンフレット置いたりですとか、キッチンカーを誘致して、その方にパンフレットとか託したりとか、石ころ探索キットですかね、委託販売みたいな形でできればいいかなと思ったところでした。

無料駐車場を利用するとき地下道を通るんですけど、国道をそのままびゃっと横断する姿が多く見られるというお話も聞いておりますが、そちらは把握されていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

国道を地下通路を通らずに渡る方というのは、私も見たことありますので把握をいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

そうですね。幸い事故が起こっていないようなので、地下道になるべく誘導できればいいなと思っていて、そういう案内とかあるよというふうになったら、地下道を通ってみようかなという気にもなるのかなと思ったりしました。

私、結構、地下道を通るのが好きで、実際、見てきたら、地元の子供たちが書いたイラストとか、手型とか、たくさん描かれておりました。ちょっとね、剥がれてはきていると思うんですが、いつ

頃書かれたものか分からないんですが、すごく明るい気持ちになれるすてきな地下通路だと思いましたので、ぜひそこにパンフレット、お知らせボードみたいなのも設置できたらいいんじゃないかと思っております。

ヒスイ海岸でそういった案内機能を持たせることで、市内の飲食店ですとかお土産店への回遊促進ができると思いますので、ぜひ前向きな検討をお願いします。

続いて、トイレ、ごみ利用についてです。

近隣住民や事業者から、トイレ利用やごみの持込みに関する相談は寄せられていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

近隣の住民の皆さんですとか、そういった方から、利用者も含めてなんですけれども、ごみに関する苦情というのはいただいておりません。

トイレにつきましては、やはり通年型のトイレを望む声もあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

仮設トイレが設置されているようなんですけど、どの辺りに幾つ設置されていて、管理体制、掃除とか、そういう備品の補充とかはどのような体制になっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

トイレにつきましては、海岸の降りて右側のほうに2基設置してございます。

管理につきましては、事業者のほうに委託をしているという状況になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

質問しといてあれなんですけど、私も見てきて、海側のほうに2つ和式のトイレがありまして、トイレットペーパーもちゃんと補充されているので、管理しっかりされてるなと思ったところなんですけれども。

ごみも持ち帰りを啓発されているということですが、ちょっと皆さん心の中で考えてほしいんで

すけれども、持ち帰ったごみは、どこに捨てますか。仮設トイレあるけど、近くにコンビニの整備されたトイレがあったらどうしますか。ごみについては、ちょっと帰り道にコンビニに捨てさせてもらおう、どうせならちょっときれいなトイレ貸してもらおう、そんなふうに思う人が多いんじゃないかなと、正直思います。

地域の方から観光シーズンになると近隣の事業者には、トイレ利用やごみの持込みが集中し、大変困っているという声を伺っています。特にテレビなどでヒスイ海岸が取り上げられた際やゴールデンウィーク、海水浴シーズン、春や秋の石拾いのしやすい時期には、その傾向が強くなるとお聞きしています。ごみ箱が、すぐぱんぱんになってしまう、トイレ清掃にかなり労力を使っている。はっきり言って、相当ひどいと聞いています。

観光客と事業者、地域住民の双方にとってよりよい環境をつくるという観点から、常設トイレ整備、ごみ箱の設置など、検討できないでしょうか、いま一度お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

まず、トイレなんですけれども、通年型のしっかりしたものを造ることになると、上下水道の敷設ですとか建物の建設、そういったもので多大な費用がかかるという部分が、まず、すいません、前提としてあります。そして、市長も申し上げましたように、冬期間は非常に利用者が減るというような状況も踏まえて、今現在、仮設トイレのほうで対応しておるところです。今後は、えちごトキめき鉄道さんの押上駅のトイレのほうに誘導するような看板を、本年度内に今つけるということで今調整をしているところですので、そちらの誘導を第一に考えたいというふうに思います。

あとは、ごみの問題ですけれども、近くのコンビニ店ですとか事業者の皆さんが、ごみで困っているという状況をお聞きしましたので、ちょっと私もしっかりヒアリングをして、状況を確認する中で、どのような対応ができるのか、検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

ちゃんとマナー啓発の表示も幾つかあるので、でももっと分かりやすいほうがいいのかなと正直思いました。でも強い言葉やごみ捨て禁止、トイレ使わないでくださいみたいなことは、見た目もよくないですし、逆効果な面もあるのかなと思うので、表示つけられるトイレ、押上駅のトイレを利用してくださいますと表示つけられるよということなので、よかったなと思っておりますし、みんなに優しい言葉で簡潔に分かりやすいマナー啓発が、まずはできればいいかなと思っております。

観光客が増えることそのものがゴールではないと考えています。糸魚川に来ていただいた方が、この町の魅力を感じ、市内を巡り、地域のお店や事業者にも恩恵が届くことが稼げる観光につなが

ると思います、先ほどのポイント3つに直結すると思うんですけれども。

また、観光振興を進める上で、観光客でなく地域住民や事業者への配慮も欠かせないので、皆さんの理解と協力があるこそ、持続可能な観光地づくりが実現できるものと考えます。

ヒスイ海岸という全国に誇れる資源を生かしながら、受入環境の整備と地域経済への波及効果の両立に向けた取組を維持し、この観光振興について、項目を終わりたいと思います。

では、続きまして、有害鳥獣及び有害昆虫への対策について伺いたいと思います。

熊の目撃情報は、昨年度と比較して増えているのでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

熊の目撃情報なんですが、昨年度6月までで11件、今年度は、昨日までで33件ということで増えております。ここ一、二週間の目撃情報が多く寄せられてますので、警戒が必要だというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

熊の目撃情報、昨年比べて増えているということですが、個体数が増加しているとお考えなのか、町のほうに降りてきている、熊が増えてきているという考えなのか、どういうふうに分析してらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

今年の傾向といたしましては、個体数が増えてるというよりは、1頭2頭の熊が、結構、町場のほうに出てくるケースが多いのかなといったふうに捉られております。どうして町のほうに出てきますと、目撃者の数も増えてきて、通報も増えるといったような状況になるものですから、通報件数、目撃件数が増えてきてるといったふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

私も正直、熊が増えたというよりは、関心が高まったことによって目撃情報の通報が増えている

のではないかと思っているんですけども、目撃情報が増えているという事実そのものが不安につながってくるかと思います。

市として今後どのような状況になれば、危険度が高まっていると判断するのか、また、どのような指標を持って警戒を強めていくのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

どのような状況で警戒を高めていくかといったことなのですが、同じ個体であって、目撃情報が増えるといったようなことはあるんですが、やはり1つの指標は目撃情報だと思っております。その状況、どんな頻度で目撃されたかというのをしっかり分析するというのが1点です。

もう一点は、捕獲の状況をしっかり見ていこうというふうに思っております。捕獲が増えるということは、やはり個体数が増えているのかなというふうに推察できますので、その両方をしっかり見た中で、警戒情報、市民への呼びかけを検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

今、捕獲という言葉がありましたが、捕獲もそうなんですけれども、集落周辺の草刈りですとか緩衝帯の整備、熊を寄せつけない、町に降りてこないような環境づくりも重要であると考えております。実際に、地域で継続的に環境整備行われている場所では、目撃情報が少ないとお伺いしました。市として、地域ぐるみの環境整備の取組をどのように進めていく考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

確かに集落と里山ですかね、その間の緩衝帯、草刈りみたいなものをしっかり行ってる地域というのは、やはり目撃情報、熊もやっぱり下に降りてくるのが少なくなるといったようなことは私もちょっと経験上、そのようなふうに感じております。それらのことを進めていただきたいと思うんですが、やっぱり地域のほうで草刈りとかなかなか難しいというのも実態ではあると思います。

市といたしましては、もう一点、今年度なんですけど、熊の出没防止対策といたしまして、不要果樹などの伐採事業に補助金を出しております。地域で柿の木とかそういうものを伐採する場合に補助する制度となっております、補助率が10分の10で、上限10万円となっておりますので、そちらのほうの活用もお願いしたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

果樹伐採の補助金ということで、ぜひ周知していただければと思います。

次に、市職員の狩猟免許取得についてなんですけれども、今は8名取得されている方がいるということで、また今年も試験があると思うんですけど、今年、取得される予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

今年度は、3名取得予定でございます。農林水産課ですとか、能生事務所、青海事務所、そういう鳥獣対策の業務を担当する部署の職員が、取得予定となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

今年3名取得予定ということで合格を願っているんですけれども、今担当部署、関係部署とおっしゃったんですけれども、市役所って異動があると思うんですけれども、異動してしまったら、もうその狩猟には関わらないというふうになってしまうんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

狩猟免許、異動いたしましても、狩猟免許の継続期間中は免許を持っていて、必要があった場合は協力体制を取ってるんですが、免許の期間が終わりますと、更新していただける方は更新をお願いしてるんですが、更新がない場合は、その段階で免許のほうは流れてくといえますか、免許がなくなるといったような状況になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

流れてしまうのはとてももったいないと思うので、関係部署以外の職員の方にも狩猟免許の取得を促したりですとか、もしかしたら興味がある方がいらっしゃるかもしれないですし、課を異動し

ても庁舎内全体で有害鳥獣の対策に当たるといえるのか、協力体制をつくっていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

職員の協力体制なんです、それは取っていく必要があると思っております。今回が3名の取得なんです、それは公費による取得になります。それ以外に、わな免許も含めまして、普通の市民の方も含めまして補助制度もございますので、市の職員であっても補助制度を使って取得することは可能です。

有害鳥獣の対策につきましては、捕獲の担い手ですね、そちらのほうはまだ不足しているといったような状況ではあると思いますので、市の職員も協力しながら、捕獲が進むような体制を構築できるよう、努めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1番（池田七菜君）

狩猟は経験も積まないとなかなか実践できないかと思っておりますので、より多くの方にとりあえず、将来につながるようにしていただければと思います。

（4）のガバメントハンターについてなんですけれども、ガバメントハンターの採用の計画ですとか、人員を何名程度確保する予定など、計画があれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

ガバメントハンターについてなんです、鳥獣対策を専門的に行う職員ということで、現在、当市は導入しておりませんが、今年度、県内では5市程度、導入するというふうにはお聞きしております。

主な業務としては、鳥獣出没地区の巡回ですとか、わな設置やその巡回、市民から通報あった場合の鳥獣対応などを行って、担っているというふうには聞いております。

有害鳥獣対策について、現地対応や猟友会との連携強化を図る上でも、ガバメントハンターは有効であるというふうには捉えております。仮に導入する場合に当たっては、2人1組での活動がいかんかと思っておりますので、2人程度の採用といえますか、ガバメントハンターとしての雇用といった形になるかとは思っています。

どのような形でできるか、ちょっと研究してみないと分からないところがありますが、しっかり

他市の事例も研究する中で、調査研究を進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

ぜひ研究と検討をお願いいたします。

次に、スズメバチについてなんですけれども、スズメバチに関する相談件数、年間どの程度ありますでしょうか。

また、通学路や人の通りが多いところに巣があるという問合せはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

小竹市民生活課長。〔市民生活課長 小竹貴志君登壇〕

○市民生活課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

スズメバチに関する相談なんですけど、正確な記録は取ってないんですが、年間で20件程度だというふうに思っております。例年、夏から秋口にかけて相談が増える傾向となっておりまして、通学路や人手が多いところにあるよというような、そういうご連絡も多少、数件ございます。市の管理地にそういうスズメバチとかがあった場合は、すぐ撤去といいますか、駆除するような対応を取らせてもらっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

池田議員。

○1 番（池田七菜君）

先日の利根川議員の一般質問でも取り上げられていたんですけども、ぜひスズメバチの巣の駆除は危険を伴いますし、費用も高くなってしまいますので、ぜひ補助制度を創設を要望して、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○副議長（保坂 悟君）

以上で、池田議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変お疲れさまでした。

〈午後3時17分 延会〉